

2019年 東京労働学校第136期

社会保障講座

コーディネーター **後藤道夫** (都留文科大学名誉教授)

日時：5月13日(月)～6月17日(月)

毎週月曜日・全6回 19:00～21:00

会場：全労連会館 (文京区湯島2-4-4)

参加費：7,500円 (1回聴講1,500円)

CD受講 9,000円、音声受講 6,000円

※各回テーマ・講師は裏面を参照してください

アメリカからの武器爆買いと社会保障の充実、どちらが大切か、自明ではないか？

長期の社会保障削減で、医療、介護、障害、困窮者支援にたずさわる人々は、怒りと疲労で一杯だろう。右派政権をたおし、社会保障(+ まともな労働条件)の本格的再建・拡大を開始しなければ、人々の生活と社会は壊れるばかりだ。闘いと日々の努力の方向を鮮明にする必要がある。

この講座では、医療、介護、居住を中心に、社会保障の再建・拡大の哲学と政策を学ぶとともに、社会保障実践の最先端にせまる。



【申込先】 東京学習会議 電話：03-5842-5646 FAX：03-5842-5647 メール：gakusyukaigi@gmail.com http://gakusyukaigi.org

東京労働学校第136期「社会保障講座」 受講申込書 年 月 日

氏名		男・女	年齢	才
住所	〒			
電話	携帯:	自宅:		
メール				
受講方法	①教室受講	②音声CD受講	③データCD受講	※音声受講はwebサイトからお申込みください
団体名				

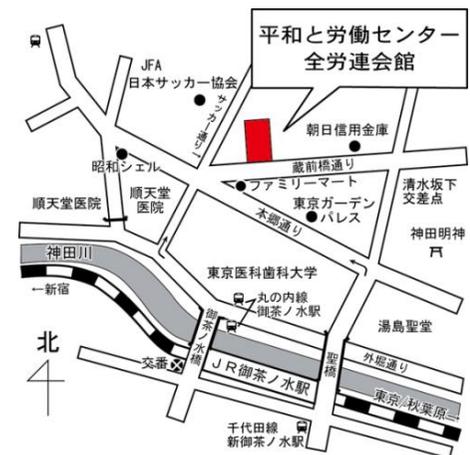
教室に通えない人は…

CD受講 9,000円

- ①音声CD：CDプレーヤー再生用 (1回2～3枚)
- ②データCD：パソコン再生用 (1回1枚)

音声受講 6,000円

サイトから音声ファイル・資料をダウンロード (動画視聴もできるようにする予定) ※お申込みは東京学習会議HPから



第1回
5月13日

カネがなくて病院にいけない

— どうして? どうする? ① — 受診抑制の背景と打開の道筋—

講師 後藤 道夫 (都留文科大学名誉教授)

受診抑制の広がりや手遅れ死亡、医療保険の保険料と窓口負担の現実、現物給付原則と本来の社会保険、日本の医療の歴史的長所と現在の危機、子ども医療・無低診・法的減免措置、医療従事者への期待。

第2回
5月20日

カネがなくて病院にいけない

— どうして? どうする? ② — 受診抑制と闘う現場から—

講師 松尾 夕美子 (大田病院 医療ソーシャルワーカー)

地域の生活困窮者、大田病院の受療権保障の方針、無料低額診療の取り組みの実際、利用者の状態、無低診と生活保護・44条減免、街頭相談会・診療所の「よろず相談」窓口など。

第3回
5月27日

必要な介護をきちんと提供したい! ①

— 基礎的社会サービスの現物給付原則と介護保険の現状—

講師 後藤 道夫

介護サービスはカネで買うものか? 多額の貯金が必要な制度? 介護は営利事業でいいの? 介護保障と介護保険の違い。介護労働はなぜ判断権限がないのに低処遇なのか? 社会サービスの現物給付原則。

第4回
6月3日

人権としての居住

— ハウジングファーストの考え方と運動—

講師 稲葉 剛 (つくろい東京ファンド代表理事、立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任准教授)

「ハウジングプア」の実態、居住という基盤を欠いたセーフティ・ネットの無力、あるべき居住保障の枠組、市民運動ができること。

第5回
6月10日

必要な介護をきちんと提供したい! ②

— 1人1人の介護・医療の必要を見きわめ、提供するための手段を総動員—

講師 末永睦子 (明星大学非常勤講師、現職ケアマネージャー)

<周囲>ではなく<本人>が望む介護・医療・生活を出発点に。医療保険・介護保険・障害者総合支援制度・措置制度・生保を使いこなす。

第6回
6月17日

生活と財政、どうすれば成り立つの?

— 福祉国家型生活保障の原則と政策枠組—

講師 後藤 道夫

- 個人単位の所得保障：勤労者は勤労収入で。非勤労者は社会保障で。一人分暮らせない賃金の下では、最低生活保障は機能しない。
- 基礎的社会サービス：勤労者も非勤労者も、公的責任による現物給付で。
- 居住の権利の保障：居住基準の徹底、公的住宅の十分な供給、住宅補助制度
- 富の大企業への集中を規制して、大きな福祉国家財政へ